

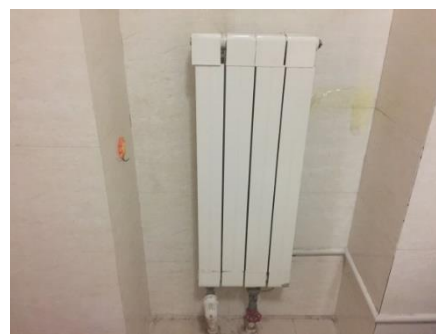
異文化体験記 ◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

皆さん、こんにちは！この冬は本当に寒かったですね。世界的な寒波が猛威を振るい、日本各地でも大雪による被害が発生したようですが、皆さんのところは大丈夫でしたか？

私が今いる中国の青島市でも、今年が一番寒い時で-10℃近くまで気温が下がりました。人からは「寒くて大変やろ」と心配されますが、実はそうでもなく青島の冬は和歌山よりも暖かいと言えるかもしれません。このカラクリは暖房にあります。

中国北部の都市にある家庭には、暖気（ヌアンチー）と呼ばれる共同暖房設備が整備されています。これは、ボイラーで温めたお湯又は蒸気を、パイプを通して建物内を循環させて暖めるセントラルヒーティングシステムです。こう聞くと日本にもある床暖房と同じように感じるかもしれませんが、一戸の家の中で完結する日本の床暖房と異なり、暖気（ヌアンチー）は、地域毎にボイラーを設置し、街中に張り巡らせたパイプを通して各建物に暖気を供給する都市規模の共同暖房設備で、電気や水道等と同じ都市インフラの一つです。ヨーロッパの寒い地域で発展してきたシステムのようなのですが、中国では1950年代に、政府主導で寒さの厳しい北部地域に導入されました。

共同暖房の整備された住居には、台所やトイレなどを含め、各部屋のだいたい窓近くに末端装置である放熱器が設置されており、冬になると24時間部屋全体をだいたい16~24℃くらいに暖めてくれます。放熱器は火傷するほど熱いものではなく、触っても温かい程度なので子供のいる家庭でも大丈夫です。またこのような放熱器の他に、床全体にパイプをめぐる床暖房を整備しているところもあります。ストーブなどのように局所的ではなく、部屋全体が暖かく、さらに灯油交換などの面倒もなく、シーズン初めに部屋の面積に応じた暖房費を大家さんかマンションの管理会社に払えば後は手間いらずです。



暖気（ヌアンチー）の放熱器

本当にありがたい暖気（ヌアンチー）ですが、難点もあります。最大の難点は何といっても大気汚染です。中国の大気汚染は、冬になると悪化し、南部よりも北部の地域で汚染が深刻なのですが、これは共同暖房の稼働時期やエリアと一致しています。暖気（ヌアンチー）の燃料には石炭を使っているところが多く、これによる大量の煤煙が大気汚染の大きな要因と目されています。

近年中国政府は環境対策に力を注いでおり、特に2017年は石炭から汚染の少ない電気又は天然ガスによるボイラー設備への転換を強力的に進めました。私のいる青島でもこの冬から石炭に代わって天然ガスによる暖気の提供が行われています。この暖房設備の改革は、天然ガスの需要急増により価格高騰と供給不足が引き起こされたことや、石炭式からガス・電気式の暖房への設備改修が間に合わない家庭や施設が多数あったにも関わらず、石炭の厳しい使用制限が行われたことなどから議論を呼びましたが、大気の改善という点で見ると、功を奏したと言えます。私が中国に赴任したのは2015年で、当初は聞きしに勝る大気汚染に驚いたものでしたが、この冬は前の二年に比べて青空を見る機会がかなりあり、空気の改善を実感しました。

安全、安価で安定した暖房を等しく市民に提供することが暖気（ヌアンチー）の大きな使命ですが、さらにクリーンであることも重視されるようになってきました。青い空と暖かい家をめぐる中国の闘いはまだまだ始まったばかりです。

〈宮本実穂（平成29年4月より中国山東海峡国際旅行社にて研修中）〉